

つながる



社会に開かれた教育課程

本校では、令和2年度～令和3年度の2年間にわたり、「**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～地域とともに育てる授業～**」を研究主題として、各学部で授業研究に取り組んでいます。児童生徒一人一人の実態を把握するとともに、地域とつながり、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことを通して、わかる、できる授業づくりをしていくことがその目的になっています。

今回は、小学部高学年の合同生活単元学習で取り組んでいる「この木何の木」の取組を紹介します。この授業では、地元の特産でもある「りんご」をとりあげています。自分たちの生まれ育った地域をより深く理解し、それによって郷土を大切にす気持ちの醸成につなげていくことをねらいにしています。

授業内容を充実させるために、地域の学校や住民の支援を得ながら取組を進めています。五所川原農林高校の皆さん、木村さん、どうもありがとうございました。



7月6日 五所川原農林高等学校を訪問し、生徒の皆さんから「りんご」について学びました。



9月21日 学校の近くにある鱒ヶ沢町建石地区の木村さんのりんご畑を訪れました。

りんごもぎ体験をさせていただき、さらに、たくさんのりんごをいただきました。



研究授業を委員が参観



表面で紹介した「この木何の木」の研究授業が10月26日に行われました。当日は、学校運営協議会委員の伊藤PTA会長と石川委員にお越しいただき、授業参観と同時に授業の評価もしていただき、その内容を授業担当者にフィードバックしました。ありがとうございました。



学校間交流の風景

新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ始め、感染対策に十分配慮したうえでの交流活動が行われています。その様子をいくつか紹介します。



11月2日 森田小学校との交流



10月26日 たていし愛児園との交流



10月28日に行われた本校中学部と森田中学校1学年の生徒たちとのポッチャ競技を通じた交流の様子です。